

海 その愛 岩谷 時子 作詞

海に抱かれて 男ならば
たとえ破れても もえる夢を持とう
海に抱かれて 男ならば
たとえ独りでも 星をよみながら
波の上を行こう
海よ俺の海よ 大きなその愛よ
男の想いを その胸に抱きとめて
あしたの希望を
俺たちにくれるのだ

海に抱かれて 男ならば
たとえ一つでも いのちあずけよう
海に抱かれて 男ならば
たとえ一度でも 嵐のりこえて
遠い国へ行こう
海よ俺の母よ 大きなその愛よ
男のむなしさ ふところに抱き寄せて
忘れさせるのだ
やすらぎをくれるのだ
海よ俺の海よ 大きなその愛よ
男の想いを その胸に抱きとめて
あしたの希望を
俺たちにくれるのだ

1976 年発売の加山雄三の代表曲のひとつ。同名アルバムのタイトル曲だが、シングルは発売されていない。作曲の弾厚作は、加山雄三本人が作詞家・作曲家として使っているペンネームで、彼が 尊敬する團伊玖磨と山田耕筰から取ったものである。既に歌謡界の重鎮であった作詞家、岩谷時子 に自ら「スケールの大きい曲にしてほしい」とリクエストして作られた。1978 年、1987 年、2000 年の 3 度 NHK 紅白歌合戦で歌われた。

大いなる海という存在に魅せられ続けている彼の価値観が表現されている。生涯現役を地で行く 加山雄三。そんな彼はなんと 75 才でエベレスト登頂に成功。その時につい口をついて出て来たのが この「海・その愛」だという。

■作詞・岩谷時子(いわたにときこ)(1916-2013)

作詞家、詩人、翻訳家、歌手・越路吹雪のマネージャーとしても知られる。

本名、岩谷トキ子。1939年に宝塚歌劇団の出版部に就職。友人で宝塚スターだった越路が1951年に退団して東宝の専属女優になった際に一緒に上京。1980年に越路が亡くなる

までの約30年間、無償でマネージャーをつとめた。

訳詩・作詞の道に入ったのは越路が歌う外国曲(主にシャンソン)を訳したのがきっかけ。

「愛の讃歌」「サン・トワ・マミー」などは越路さんの代表曲として親しまれた。1964年にはザ・ピーナッツなどが歌った「ウナ・セラ・ディ東京」や、1966年に加山雄三

「君といつまでも」で日本レコード大賞作詩賞を受賞。その他、ザ・ピーナッツ

「恋のバカンス」、ピンキーとキラーズ「恋の季節」、郷ひろみ「男の子女の子」など数

多くのヒット曲の作詞を手掛ける。ミュージカルの訳詩も多く、代表作に「ジーザス・クライスト=スーパースター」「王様と私」「レ・ミゼラブル」など。訳詩の功績で1979年度の菊田一夫演劇賞特別賞、2006年に渡辺晋賞の特別賞を受賞。

2013年10月25日、肺炎のため東京都内の病院で逝去(享年97)。

出展:TAP The POP(<http://www.tapthepop.net/>)